





天草市長 馬場 昭治

1968年生まれ。熊本大学教育学部卒業。社会人経歴を経て、衆議院議員公設第一秘書。2000年、合資会社馬場商店へ入社。2008年、ババ商店株式会社、株式会社天馬堂の代表取締役。2017年、天草ケーブルネットワーク株式会社 代表取締役。2021年2月、天草市長に。

新春特別企画

馬場天草市長に訊く、天草と未来

学ぶ、変わる。動く、つながる。

新年あけましておめでとうございます。

2022年最初の『け～な』は特別企画!

馬場昭治 天草市長をKANPAI AMAKUSAにお迎えし、弊蔵代表の平下が対談させていただきました。

農業、観光、まちづくり会社づくり…

そして話は天草の未来に及んだところで、タイムアップ。

12月の冷えた日の午後に行ったインタビュー。

終了後は気温が高まったような、熱量ある濃い時間となりました。

聞き手/小園勝之



天草酒造 代表取締役 平下 豊

1977年、天草市新和町生まれ。東京農業大学卒業後、天草酒造へ。2014年、天草酒造代表に。新和グッドカンパニーズ代表。

お二人はいつ頃から知り合... 平下:5年程前から記憶しているのですが、市長が経営者だったころです。天草の企業として地域おこしの活動をされていたこともあり、一時的には存知あげていたのですが、実際に繋がったのは天草ケーブルネットワークさんのラジオで「縁をいただいたからですね。私たちが同時期に地域おこしの活動を行っていたこともあり、お声がけいいただいたかと思えます。馬場市長:そうでした。また天草酒造の先代である平下さんのお父さんとはもともと先に「縁がありま...」

て、どのようにお考えでしょうか? 馬場市長:天草に限った話ではないですが、地方では多くの企業で人材不足が叫ばれています。その大きな原因のひとつは働き手に「ここで働きたい!」と思わせる会社はまだ少ないからではないでしょうか。これは自身にも戒めを込めて、ですが。若い人が働きたいと思える会社や職業がないから都市部に出て行ってしまふ。彼らからすれば「帰っても仕事無いじゃん!」そのためには彼らが「働きたい!」と思える企業になっていくことが大事です。社員のこと、その家族のことを考えて、幸せなくらしを送ることができるよう、「会社を良くして、いく」ということです。...」

馬場市長:私も平下さんも35歳で親から経営を引き継ぎましたが、親から何か指示を受けるようなことはありませんでした。最初は相談さえしなかったら、周りの人から言われました。親父さんが「相談がない」と言っていたよって。それから、相談はするようになりましたね(笑)。平下さんはどうでしたか? 平下:私も同じようなことがありました。相談もせず、新しい焼酎を造っていたんです。そしたら父が「せめて出ま上がりにくらくら飲ませろ」と、そりゃこもともですよね(笑)。うちの父の場合は祖父からの継承が大変だったんです。なかなか思うようなタイミングで継がせてもらえずに、だからそれを父は反面教師にしたかもしれません。今思うとちょっと不思議です。昭和の時代の父親っていわゆる厳しかったの。要するにめつちや...」

平下:私も天草ほど良い所はないと思っています。KANPAI AMAKUSAも「東京に営業しに行かないの宣言みたいなのも」して作った場所なんですよ。それに、天草に来て頂けたら思いっきりおもてなしする。そのために、馬場市長:ええ、ありましたよ。平下:僕もラジオなんかとあるな感じでしたが、真面目な話か中心のほうで本当はやりやすいんです。地域への思いや、未来像なんかもあります。馬場市長:そういうのを知っていたから、安心して任せることができました。平下:私たちの世帯って、みんな中学から高校くらい、とき、娘天草に人が沢山出ていっている。天草の良い時代を知っている。年代の近い人と飲んでいる。天草こんなものじゃない!という話にもなるんです。でも私たち世代より10歳以上若い方になると、そういう風景を知らない世代になつてきます。彼らにとっては「活気でにぎわう天草」というのが想像づらいいのも無理はありません。馬場市長:そうですね。平下:私も天草ほど良い所はないと思っています。KANPAI AMAKUSAも「東京に営業しに行かないの宣言みたいなのも」して作った場所なんですよ。それに、天草に来て頂けたら思いっきりおもてなしする。そのために、



蔵前のバス停小屋。変わらない原風景。変わったのは人が変わったこと。

地域をつくらねば 焼酎はつくれない

なぜそのような考えに至ったのでしょうか?

平下:私は、35歳までは「世の中に出不なかつた」んです。それまでは本当に焼酎づくりにしかしていません。当時、息子が小学校1〜2年生だったんですが、私の生活は早朝から夕方まで仕事、夕方からは息子と一緒に野球の練習をして、一緒にお風呂に入つてご飯を食べて...まるで「一緒に遊ぶ兄弟」友だちと言わなければならない。その頃、だんだんと天草が疲弊して、行くのを感じていました。まちを歩く人も減っているし、天草の経済が衰退していくのを目の当たりにしながらも、「自分には関係ない」と考えていたんです。...」

会社も学ぶ、みがく その意欲がだいじ

お二人で天草の将来を語りあうようなことってあったの

平下:私も同じようなことがありましたが、親から何か指示を受けるようなことはありませんでした。最初は相談さえしなかったら、周りの人から言われました。親父さんが「相談がない」と言っていたよって。それから、相談はするようになりましたね(笑)。平下さんはどうでしたか? 平下:私も同じようなことがありましたが、親から何か指示を受けるようなことはありませんでした。最初は相談さえしなかったら、周りの人から言われました。親父さんが「相談がない」と言っていたよって。それから、相談はするようになりましたね(笑)。平下さんはどうでしたか? ...」



天草酒造の芋畑。新和町の耕作放棄地活用も今後検討していきます。

みなさん、天草は良くなりますか?

市長の思ふ天草の一番の課題は何でしょうか?

馬場市長:市民の皆さんに、「もっと天草に自信を持ってもらうこと」だと思っています。田舎でも無い、少子高齢化、という所でポジティブになれる方が多くいます。平下:都市部に出ていると、親御さんが「帰つてこない方がいいです。帰つてくるという話を聞きます。でも私は帰つてきたほうが好きです。天草が良くなつていくと、手も上げてみてほしいです。そうすると、大体ゼロとか1〜2人なんです。そこでいつも自分の中で「皆さんに同じ質問をしてもっと1時間話をします。結果、最後にもう一回同じ質問をすると、半分以上は手が上がるようになる。それだけでも、私の仕事として大事なことだと思っています。平下:私も天草ほど良い所はないと思っています。KANPAI AMAKUSAも「東京に営業しに行かないの宣言みたいなのも」して作った場所なんですよ。それに、天草に来て頂けたら思いっきりおもてなしする。そのために、